

記入者：氏名

マージン
上16mm 右21mm
下7mm 左21mm

〇〇部重複障がい学級自立活動指導略案（個別）

日時	平成29年1月21日（土）10:00～10:50		場所	中学部重複学級教室
題材名			授業者	MT：姓のみ
題材の目標	・□□□□□□□□□□できる。身（1）、コ（1） 「個別の指導計画」における、自立活動の目標を記入する。 区分、項目なども記入する。			
本時の目標	・□□□□□□□□□□できる。身（1）、コ（1） ・□□□□□□□□□□できる。人（1）㊦㊧㊨ 使用教材や教材のねらいについては裏面に記入する。			
人権教育の視点	㊦ 人権教育を通じて育てたい力（資質・能力）または目標を記入する			
時刻	学習活動		提示、指導方法、留意点	「育てたい力」との関連
10:00 活動や使用教材ごとに区切る	1	裏面の説明（※3）を参照して記入。 授業改善の目安とする。	本時の目標を達成する“指導方法”を記述する。 提示（提示方法を記入する） ・□□□□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□。教材1 ※使用教材を記入する。（裏面の教材番号）下線を引いて記	㊦ ここに「育てたい力」に関連する手立て（支援内容）を記述する。 →「～な力がつくよう、～な支援をする。」または「日常生活で活かすことができるよう、～する。」という文章にする。 準備物に下線を引
	目標設定	指導方法	教材	
10:15	2		提示 ※空いたスペースに ・改善点、良かった点（継続する点）を記述する。できるだけ代案を記述する。 ・学習活動ごとに横書きで記述する。	㊦
	目標設定	指導方法	教材	
10:35 10:50	3		提示 ・	㊦
	目標設定	指導方法	教材	
反省 気づき	・継続するか否か （継続：習得後も、定着の必要がある場合は継続とする or 中止→新教材提案） ・改善案（指導方法、新教材提案）			

※1 展開部分は表面に納まるように記述する量を調整する。

《活動の姿勢》

・ 仰向け、横向き、クッションチェア、座位保持椅子、立位歩行など

※2 写真で示すなどしてもよい。

《教材の提示位置とねらい》

	教材 1	教材 2	教材 3
写真			
提示位置			
ねらい			

※3 表面の授業評価に関する欄について

表面「学習活動」下部の欄については、「授業評価」の欄として使用する。授業評価は、教材または活動ごとに記入するようにし、授業改善の目安となるよう、例にあるように記入する。

<例>

目標設定	指導方法	教材
◎	△	○

【評価基準】

◎適切であった ○概ね適切であった △不十分